資料１

第３期久留米市文化芸術振興基本計画（令和２～７年度）の総括（案）

第３期久留米市文化芸術振興基本計画（令和２～７年度、以下「現基本計画」と言う。）では、「市民が主役の楽しい文化創造都市・久留米」を基本理念とし、「久留米シティプラザや美術館などの文化施設や暮らしの身近な場所で、様々な文化芸術を鑑賞したり、活動したりする人が増え、心豊かな市民生活を創造するまち」を実現するため、４つの計画の柱を設定し、各施策の推進に取り組んできました。

現基本計画の期間が令和７年度で終了するにあたり、ここでは、これまでの計画の進捗を検証し、次期基本計画策定で留意すべきことを確認していきます。

１．総括目標の達成状況

現基本計画では、３つの総括目標を設定し、市政アンケートモニターにより達成度を見ていくこととしています。

令和６年度の市政アンケートモニターの調査結果を見ると、計画最終年度の目標値に対して、次の表のとおり、厳しい状況となりました。

計画最終年度の目標値については、令和元年度の実績値を基準に努力目標としてより高い数値を設定していましたが、当時予測できなかった新型コロナウイルス感染症の拡大や豪雨災害など、市民の文化芸術活動に大きな影響をもたらす出来事が起きたことが、大きな要因となっています。

		令和元年度（計画策定時）	令和６年度（5年目）	令和7年度（計画最終年度）	評価結果
		市政アンケートモニター	市政アンケートモニター	市政アンケートモニター	
目標①	最近１年間に鑑賞した文化芸術が１つ以上ある市民の割合	**77.6%**	**66.1%**	**85%以上**	**B**
目標②	最近１年間に活動した文化芸術が１つ以上ある市民の割合	**19.4%**	**17.1%**	**25%以上**	**C**
目標③	鑑賞、活動があると回答した市民のうち、その場が久留米市内である割合	**83.0%**	**80.6%**	**85%以上**	**B**

※評価基準：Ａ「目標が達成できる見込み」／Ｂ「目標達成には厳しい状況にある」／Ｃ「目標達成には努力を要する」
（久留米市新総合計画第４次基本計画の政策評価制度と同じ基準による）

２．主な取組の成果と課題

計画期間中は、令和２年度から新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、令和５年７月に豪雨災害が発生するなど、計画の推進に大きな影響を及ぼす要因が発生したため、総括目標の達成度だけで計画全体を評価することは、適当でない状況となりました。

一方で、コロナ禍による事業の中止や延期、文化施設の休館等にも対応しながら、工夫して様々な取組を実施しました。計画に基づく取組（２７事業）について、令和６年度までの振り返りを行い、成果と課題を次のようにまとめました。

【計画の柱１】市民を対象とした幅広い取り組みと多様な人材の育成

①文化芸術に関する子どもの創造的体験の充実

②あらゆる市民の文化芸術活動への支援

③文化芸術に関わる人材の育成と活用

主な取組	取組の成果	課題
□ 学校への芸術家等派遣事業	○子どもが学校でプロの芸術家と出会い、文化芸術体験ができる機会を創出する事業として定着しており、学校から高い評価を得ている。	●馬頭琴の体験を希望する学校が多く、それ以外の文化芸術分野へも子どもの関心を高めるために、実施校との調整が必要。
□ 市民文化活動助成	○全市的な規模・内容で地域文化の振興に寄与する市民団体の事業へ、必要な財政支援を継続的に行った。	●市民文化活動が多様化する中、新たな文化団体への補助が難しい状況となっている。
□ 久留米市芸術奨励賞	○将来を嘱望される受賞者を毎年度 1～5 組決定し、文化芸術活動への意欲向上を図った。また、若手の推薦を増やすため、受賞者の対象を令和 4 年度に 60 歳以下に見直した。	●芸術奨励賞受賞者を市の文化事業に活用しＰＲにつなげる取組や、若手への奨励を継続する必要がある。
□ 青木繁記念大賞ビエンナーレ（R5 年度終了）	○全国規模の公募展として、美術振興と青木繁の顕彰、美術のまち久留米のＰＲの役割を果たした。	●市の美術振興、若手作家の育成支援につながる、新たな取組の検討が必要。
□ 文化芸術コーディネーター養成	○学校への芸術家等派遣事業など、市民や地域をつなぐパイプ役としてのコーディネーターの確保のため、養成講座を開催し人材育成に努めた。	●コロナ禍によりコーディネーター登録者の休会・退会が増えたため、人材の確保・育成及びその定着について検討が必要。

成果・課題のまとめ

各事業を毎年着実に実施し、子どもの創造的体験の充実や市民の文化芸術活動への継続的な支援及び文化芸術に関わる人材育成等に努めた。

文化芸術のジャンルが多様化し、その役割も大きくなっている中、より幅広い取り組みや文化芸術に関わる人材の育成、活用がさらに求められている。

【計画の柱２】久留米ならではの文化芸術資源を活かした都市魅力の創造

①文化芸術団体等との連携による多様な文化芸術活動の推進

②音楽の力を活かしたまちづくりの推進

③文化財や伝統文化の保存・継承とその活用による郷土愛の醸成及び地域の活性化

④様々な政策分野との連携

⑤公益財団法人久留米文化振興会の組織強化への支援

主な取組	取組の成果	課題
□　多様な文化芸術活動への積極的な支援（久留米シティプラザ）	○みんなのステージ発表会など、市民団体による事業の支援を通して、多様なジャンルの文化芸術活動の発表の場を提供した。	●みんなのステージ発表会の出演者の新規開拓や、ちくご大歌舞伎など市民団体主催の事業への支援が引き続き必要。
□　音楽によるまちづくりの推進	○音楽ワークショップやライブコンテスト、ミュージックフェス等のイベントを実施し、まちの賑わい創出と市の魅力向上に努めた。	●様々な音楽イベントが行われている中、事業のあり方・内容について、引き続き検討する必要がある。
□　青木繁旧居の管理・運営	○小学校の郷土学習での利用など、地域の財産として活用されており、全国から青木繁のファンが訪れている。	●久留米市美術館における展覧会との広報連携など、今後も地域資源として守り、活用するための取組が必要。
□　歴史的建造物保存整備事業	○市内の建造物調査を国の有形文化財建造物の登録へとつなげ、観光等への活用の可能性が開けた。寺社修理の事業化や補助金等の支援により、市内の重要な建造物の保存を進めた。	●引き続き、歴史的建造物の調査・保存を着実に進めながら、地域資源としての価値を向上させ、活用につなげていく取組が必要。
□　坂本繁二郎生家活用事業	○年間を通してこども茶会、お月見、餅つき等のイベントを実施し、地域住民と連携した活用ができた。	●JR久留米駅に近い立地から、外国人観光客の来館が増えつつあるため、英語の案内や解説を増やしていく必要がある。
□　有馬記念館活用事業	○定期的な展示会等により、市や有馬家の歴史・文化を発信し、地域の魅力向上につなげた。	●効果的な情報発信や学校と乗連携等により、若年層の来館者数を増やす取組が必要。
□　歴史ルートづくり事業	○地域住民とともに歴史遺産を守り活かす仕組みを「筑後川遺産」として制度化し、公募による２件を登録した。継続的な高良山総合調査の結果、高良大社文書（百四十六通）が令和５年度に国の重要文化財に指定された。	●筑後川遺産の新規登録を増やし、郷土愛の醸成や地域の活性化につなげていく取組や、地域資源の磨き上げのために、歴史資料等の調査を着実に継続していくことが必要。
□　文化芸術事業を活用した賑わい創出事業（久留米シティプラザ）	○久留米たまがる大道芸やランチタイムコンサートに多くの市民が来場し、中心市街地に賑わいを生み出した。来場者が周辺店舗で飲食や買い物をするなど、地域の経済効果ももたらした。	●商店街など関係団体との連携をはじめ、大道芸におけるボランティアなど、イベントに積極的に参加する地域住民等を増やしていく取組が必要。
□　中学校美術教育振興事業（R6 年度から「久留米市未来の地域リーダー育成プログラム事業」に名称・内容変更）	○教育委員会と連携し、市内中学校の 1 年生が、市美術館で展覧会を鑑賞する事業を毎年度実施し、美術への興味や関心を高めることができた。学校の評価も高かった。	●予算や体制面での制約が年々厳しくなる中、今後も美術館と連携した事業実施に努める必要がある。

□　（公財）久留米文化振興会事業（補助金）	○文化センター内施設の管理運営の他、文化ホールでの音楽事業、庭園でのバラフェアやミュージアムクリスマスなど、センターの魅力を活かした多様な事業を実施した。	●老朽化が進む施設の長寿命化や維持管理及び園内のバリフリー化の推進など、市民の文化芸術活動のための環境整備や、来園者の裾野を広げるための取組が必要。

成果・課題のまとめ

市民団体による文化芸術活動の発表の場の提供をはじめ、関係団体等と連携した多様な文化芸術活動を推進した。また、「筑後川遺産」の制度化等により文化財や伝統文化の保存・継承等、地域活性化に努めた。

各分野で優れた芸術家を輩出し、市民による文化芸術活動が盛んな久留米ならではの文化芸術資源を活かし、文化芸術の振興を都市魅力の向上につなげる取組が必要。

【計画の柱３】文化施設の特性を活かした文化芸術の創造と活動の推進

①久留米シティプラザを創造・発信の拠点とする文化芸術事業の推進

②魅力あふれる美術館づくり

③各文化施設の強みを活かした効果的な事業の展開

④各文化施設間の連携の推進

主な取組	取組の成果	課題
□　久留米シティプラザ自主事業	○演劇、音楽、伝統芸能の公演に多くの市民が来場し、アンケートの満足度も高かった。聴覚・視覚障害者のための字幕・音声ガイドや介助者の無料化の鑑賞サポート、チケット販売のキャッシュレス化等にも取り組んだ。	●上質かつ多様な文化芸術の鑑賞事業を自主企画する専門スタッフの育成や、事業実施のための、助成金をはじめとした外部資金の継続的な獲得が必要。
□　久留米シティプラザ提携事業	○プロモーター等との関係構築により、演劇・ミュージカル、音楽などの全国巡回公演を誘致・実施し、市外からも多くの人が来場した。	●市外ホール等との競合がある中、話題性のある鑑賞事業を実施するため様々なプロモーターとの更なる関係構築が必要。
□　久留米シティプラザ魅力発信事業	○情報誌のリニューアルやパブリシティ強化、公式 WEB や SNS での情報発信により、新聞やラジオ、テレビ等多くのメディアに取り上げられた。シティプラザ HP の閲覧数も増加している。	●デジタルサイネージを活用した広報展開や、マスコミとの連携強化、SNS の登録者増の取組等により、さらなる施設利用の促進につなげていく必要がある。
□　美術館事業（コレクション形成／展覧会・教育普及事業／石橋文化センター全体のミュージアム化／寄付やボランティア制度）	○美術館で活用する美術品の収集を順調に進め、多彩なジャンルの展覧会やワークショップ等を積極的に実施した。園内でミュージアムコンサートやミュージアムハロウィン等を開催し幅広い年代に好	●継続的に美術品を購入するための基金への寄付呼びかけや、展覧会や園内イベントの広域への効果的な広報について引き続き検討する必要がある。協賛寄付ではキャッシュレス

	評を得た。友の会や協賛寄付の周知も強化した。	受付の検討も必要となっている。
□　そよ風ホール活用事業	○令和５年７月の豪雨災害でそよ風ホールが休館した以降は、地域の公共施設を活用した演奏会やアウトリーチ事業を実施した。	●そよ風ホールの災害復旧を計画的に進めながら、地域の市民が文化芸術に触れる機会を確保していく必要がある。
□　インガットホール活用事業	○ピアノリサイタル等の鑑賞事業や、周辺の小学校へのアウトリーチ事業、ロビーコンサートなどを実施し、好評を得た。	●久留米市西部地域の市民の参加・来場が中心となっており、市内の他施設と連携した利用促進が課題。

成果・課題のまとめ

久留米シティプラザにおいては、文化芸術の創造・発信の拠点として、誰もが利用しやすい環境づくりや上質で話題性のある事業を推進し、久留米市美術館においても多彩なジャンルの企画展やワークショップ等を開催し魅力向上に努めた。

また、令和５年７月の豪雨災害により被災したそよ風ホールの復旧を計画的に進めながら、インガットホールを含め各文化施設間の連携を図りながら、市全体として文化芸術の創造と活動の推進を図っていく必要がある。

【計画の柱４】効果的かつ積極的な情報の収集と発信

①芸術家などに関するデータの収集・整理

②文化芸術をより身近に感じてもらうための取り組みの推進

③様々な媒体を活用した戦略的な情報の発信

主な取組	取組の成果	課題
□　芸術家等に関する情報収集	○音楽ポータルサイト「くるおん」で市イベントでの出演ミュージシャンを紹介したほか、久留米市芸術奨励賞受賞者の活動状況を市 HP に掲載するなど、地元アーティストの情報を活動支援につなげた。	●情報発信の媒体・手段が多様化する中で、芸術家の情報整理・活用のあり方は、引き続き検討が必要。
□　久留米シティプラザ普及啓発事業	○小学生対象の体験事業や、社会問題をテーマとした「知る/みる/考える 私たちの劇場シリーズ」、ユースプログラム「新しい演劇鑑賞教室」、「在住外国人と市民等との交流事業」など文化芸術への関心を高める様々な事業を実施できた。参加者アンケートの満足度も高かった。	●将来の文化の担い手・鑑賞者を育成するために、引き続き子どもの体験・鑑賞事業を充実させていく必要がある。障害者や在住外国人など多様な市民が参加できるよう、事業の広報を工夫していく必要がある。
□　様々な媒体を活用した情報発信	○広報紙、市 HP、FM 放送、SNS 等による情報発信により、各文化事業への関心を高め、集客につなげた。	●幅広い世代への文化芸術情報提供のため、SNS など多様な媒体の効果的な活用が必要。

成果・課題のまとめ
久留米市にゆかりのある芸術家等の情報収集・整理ついては、分野ごとに様々な形で進めているが、その活用につながるよう工夫する必要がある。また、子どもをはじめ幅広く市民の関心を高める事業を実施しているが、情報発信の手段も多様化している中、いかに幅広い世代に、また障害者や外国人等を含めた多様な市民に効果的に情報を届け、参加を促していくのか検討する必要がある。

３　第３期基本計画の検証結果

以上の、総括目標の達成状況と主な取組の成果と課題、さらに令和６年度に実施した各種アンケート調査等から見えた課題を次のとおりまとめ、次期基本計画策定において留意すべきこととします。

（１）誰もが文化芸術に触れることができる機会の充実

文化芸術のジャンルが多様化し、その社会的な役割も大きくなっている中、誰もが文化芸術を身近に楽しむことができる取組や、こどもの頃から文化芸術に触れられる取組が求められています。今後も上質な公演や展覧会のほか、身近な場所で文化芸術に触れる機会の創出に努め、誰もが参加しやすい内容へ充実させていく必要があります。

（２）文化芸術に関わる人材の育成と活用

将来の文化芸術活動を担う人材を育成するためにも、文化芸術活動を行う団体・個人の発掘や支援の継続が求められています。また、文化施設の運営スタッフ、文化事業を支えるサポーター等の確保・育成にもさらに努めていく必要があります。

（３）久留米ならではの文化芸術資源のさらなる活用と、効果的な情報発信

久留米シティプラザを核とした賑わいづくりや、こどもの鑑賞機会確保のための学校等との連携、石橋文化センター・久留米市美術館や市内の文化財等の久留米ならではの文化芸術資源を守り、都市魅力の創造へと活かしていく取組を、一層進める必要があります。

また、幅広い世代の、多様な市民（こども、障害者、高齢者、外国人等）に効果的に情報を届けるため、広報の手法を工夫検討し、市外から人を呼び込むための情報発信もより検討する必要があります。

（４）各文化施設の連携強化と適切な管理運営

令和 5 年 7 月の豪雨災害により被災したそよ風ホールの復旧を計画的に進めながら、各文化施設間の連携を強化し、市全体として文化芸術の創造と活動の推進を一層図っていく必要があります。また、施設の老朽化や災害復旧への対応、バリアフリー化など、適切な管理運営の手法を検討していく必要があります。